『ひらかた』を28議員が

６月定例月議会では、６月17日・20日・21日・22日の４日間にわたって一般質問が行われ、28人の議員が本市の抱える諸課題について、市の考えをただしました。質問の内容については、各議員が項目を選定の上、要約して掲載しています（そのため、実際の発言口調とは異なる場合があります）。

スクールカウンセラー等配置回数を増やすべき

公明党議員団　田中優子

質問　子どもや家庭、学校の課題が複雑化する中、子どもや保護者らがスクールカウンセラー等にすぐに相談できる体制が必要である。予約が1か月先となる学校もあると聞くが、学校規模や相談件数を踏まえ、配置回数を増やすべきではないか。

答弁　予約が取れない場合は、教育文化センターの教育相談や、子どもの育ち見守り室を紹介するなどしているが、配置回数の増加も検討する。

ICT等を活用した小・中学校の訓練避難バーチャル訓練を

質問　法令で定める就学前施設の避難訓練回数は、保育所は月1回以上に対し、幼稚園は年2回以上だが、幼稚園でも毎月訓練を行うべきではないか。

また、発災時に適切な行動ができるよう、小・中学校において、ICTを活用したバーチャル訓練等の検討を要望する。

答弁　幼稚園では、法令に基づく訓練のほか、園独自の訓練も実施しているが、その手法や回数等について早急に検討する。

横断者注意喚起灯早急に設置を

連合市民の会　西田政充

質問　信号のない横断歩道において、歩行者が押しボタン信号のような一定の操作を行うことで運転手に知らせる、簡易な横断者注意喚起灯を早急に設置するよう求めてきたが、取組状況を聞く。

また、4年3月に、逆プロポ（＊4）で、牧野高校生徒による交通ルールの周知徹底についての提案が採択されたと聞いたが、取組状況を聞く。

答弁　同喚起灯は、車両の減速を促し、歩行者の安全な横断に寄与する効果があると考える。ただ、歩行者の見落としなどの懸念もあり、今後、制作メーカーや既に設置した自治体へのヒアリング等で調査研究を重ねていく。

また、逆プロポについては、同校生徒からのリーフレットやポスターを活用した啓発活動を民間企業に提案し、採択に至った。4年11月からの実施をめどに、効果的な周知方法などの検討を進めている。

◆その他の質問

○大地震に備え、家具転倒防止器具の普及を

観光の活性化 民間団体との連携で地域資源の活用を

大阪維新の会 枚方市議会議員団　岡市栄次郎

質問　観光の活性化に向け、他市では地域のDMO（＊5）が古民家等を活用した様々な活動の例もある。経験豊富な民間団体との連携で様々な地域資源を活用した施策の発案を期待するが、本市の取組について見解を聞く。

答弁　枚方宿のにぎわい創出の取組では、事業者から古民家等活用の意見もあり、今後も連携を深める。あわせて、関係部署とも連携しながら地域の交流人口の増加等につながる取組を進める。

スケートボード施設　複数の場所で安全に楽しめるよう整備を

質問　これまでも王仁公園にスケートボード施設を整備すべきと意見してきたが、取組状況を聞く。

なお、事故等に巻き込まれず、安全、安心にスケートボードを楽しめるよう、同公園や淀川河川敷など人が集まる複数の場所への整備を要望する。

答弁　4年度に同公園の園路の一部を仮設スケートボード施設にして試行実施し、地域の理解が得られ次第、具体化を図る。

支援教育の方針変更 説明尽くし実情に合わせた対応を

日本共産党議員団　広瀬ひとみ

質問　文部科学省からの支援教育の見直し方針を受け府教育庁に確認したところ、通常学級で週の半分以上学んでいることのみで支援学級での指導から通級指導に移行すべきとはならず、子どもの実情と保護者の意向を尊重すべきとの回答を得た。

これまでの理念を大きく変え、子どもや保護者に混乱をもたらしてまで拙速に進める必要はなく、納得が得られるまで説明を尽くすべきと考える。個々のニーズや子どもの実情に合わせた対応をすべきではないか。

答弁　本市が大切にしてきた、「ともに学び、ともに育つ」という理念や、これまでの取組に誤りはないが、子どもたち一人一人と保護者の願いを当然踏まえながらしっかりと就学相談を行い、保護者に十分説明を尽くした上で、進めていく考えである。

◆その他の質問

○長尾駅前広場におけるバス待ち環境の改善を

○学校給食食材納入業者へ衛生面の現場確認を

伊加賀スポーツセンター グラウンドの人工芝化で利便性の高い施設へ

公明党議員団　山口勤

質問　伊加賀スポーツセンターのグラウンドは、小石が多く降雨後の土壌の状態が悪いため、利用しにくいなどの声を聞く。抜本的な課題解決として人工芝化することで、利便性の高い施設になると考えるが、見解を聞く。

答弁　整備について、一定のニーズはあると考えるが、財源や管理方法などに課題がある。民間との連携による整備手法の可能性を探るとともに、先進事例を調査していく。

高齢者のICT活用　市内の大学生と連携した取組を

質問　高齢者のICT活用促進に向け、市内5大学の学生から協力を得る取組を検討してはどうか。

なお、高齢者が健康や買い物などに関する便利な情報を受け取れる専用アプリの導入を要望する。

答弁　高齢者が楽しみながら学べるよう、若い世代と共にスマホを活用する体験型イベントの実施を考えており、その中で、市内の大学生たちと連携した取組についても検討していく。

ともに学び、ともに育つ支援教育の在り方とは

連合市民の会　野村生代

質問　支援教育について、今回、文部科学省の通知を丁寧な説明もなく学校や保護者に知らせ、不安を与えたことは、本当に乱暴であったと考える。支援学級での授業時数が週の半分以上になることは、本市が大切にしてきた「ともに学び、ともに育つ」教育に大きく影響する変更である。だからこそ保護者や学校側は大きな不安を抱え混乱している。ともに学ぶ時間を大切にせず、画一的に時間数を決めることは、一人一人を大切にしていないことになるのではないか。見解を聞く。

答弁　説明不十分な状態で資料を配り、保護者に不安を与えたことをおわびする。その上で、同省の通知でも指摘があったとおり、1日1コマという現状も画一的と感じている。それを踏まえ、本市の支援教育について根本に立ち返って見ていきたい。「ともに学び、ともに育つ」教育とは、全ての子どもたちが力を発揮し、互いを認め合う集団づくりにつながることと考える。

消防団の活動 外部の声を取り入れる機会をつくり反映を

大阪維新の会 枚方市議会議員団　泉大介

質問　消防団の活動について、市民や消防団員からの意見等を再三伝えてきたが、反映されていないと感じる。管理運営する立場の市としてどのように考えているのか。

なお、市が外部の声を取り入れる機会をつくり、活動への反映や地域との連携を図るよう要望する。

答弁　消防団の幹部会議に本市も事務局として参加し、意見等を情報共有した上で運営方針が決定されている。

エフエムひらかた職員市職員への採用理由は

質問　エフエムひらかたの一部職員を市の任期付職員で採用しているが、同団体の解散に伴う救済措置とも捉えられかねない。採用した個人でなく採用方法に問題があると考えるが、競争試験でなく選考で採用した理由を聞く。

答弁　同団体が担ってきた危機事象時の市民への迅速な情報伝達や市の魅力の情報発信等の分野に関し専門性等を生かすことが本市のためになると考え、選考で採用した。

津田支所での遺物展示 津田トッパナ遺跡と併せ津田城遺跡の展示を

公明党議員団　藤田幸久

質問　昨年度、輝きプラザきらら で、津田城とその周辺の展示が行われた。津田支所には、旧石器時代から鎌倉時代前半頃に存在した津田トッパナ遺跡に関する展示があるが、津田城遺跡の遺物も併せて展示し、歴史を後世に伝えるべきではないか。

答弁　両遺跡は、津田地域で発見された貴重な遺跡であり、地域の歴史をさらに発信するためにも、発見された土器等の津田支所への展示を検討する。

王仁公園の平和の像で平和式典の開催を

質問　王仁公園には、核兵器廃絶と恒久平和を念願して建てられた平和の像がある。設置から約35年がたつが、この間、式典は開催されてきたのか。

なお、建設時の基本理念が風化しないよう、平和の像の下で平和の式典を開催するよう要望する。

答弁　建設時に除幕式を行った以降は、市内の平和施設巡りの行き先としていたが、式典等は開催していない。今後、平和像のさらなる周知を図る。

待機児童ゼロに向け保育需要の見通しを

大阪維新の会 枚方市議会議員団　門川紘幸

質問　4年ぶりに国定義での待機児童が発生したが、通年の待機児童ゼロに向け、どう取り組むのか。

なお、待機児童ゼロへ、保育需要の見通しと目標事業量の中間見直しをしっかり行い、効果的な対策につなげるよう要望する。

答弁　待機児童の発生エリアを中心に、様々な手法での緊急対策を協議、調整している。また、ここ数年、保育需要の偏在が見られるため、情報収集し、さらなる対策を行う。

施設総量の最適化数値目標について見解は

質問　公共施設の個別施設計画（総合編）（＊6）の数値目標では、8年度までに小学校約5つ分の延べ床面積削減が必要で、実現不可能ではないかと考える。財政見通しなど様々な長期計画に影響を及ぼすと考えるが、見解を聞く。

答弁　数値目標は、2年度末の財政状況と更新等の費用のバランスから設定している。今後の財政状況、人口推移など変動要素を見極めながら施設総量の最適化等を進める。

SDGsの推進 プラスチックごみ削減へ給水機の設置を

公明党議員団　有山正信

質問　公共施設や公的スペースで給水機を設置している事例がある。市民が身近に感じることができるSDGsの取組として、プラスチックごみの削減やマイボトルの普及促進に有効と考えるが、見解を聞く。

答弁　市民ニーズや利用状況、設置場所や維持管理等の課題把握を行うため、公民連携プラットフォーム（＊7）等を活用し、実証実験に向け検討を進める。

DXの推進で行かなくてよい市役所を

質問　「行かなくてもよい、待たせない、書かせない市役所」を目指すよう提言してきたが、新庁舎整備基本構想では旧態依然の庁舎イメージのままである。新庁舎の在り方等を踏まえた想定規模について、見解を聞く。

答弁　行かなくても手続できる市役所等を想定し、同構想で約2万5000平方メートル以下の規模を目指すとしている。今後、DX（＊8）に係る社会環境の変化も見極め、新庁舎整備基本計画の検討を深める。

東部地域の活性化に向け必要な規制緩和を

自由民主党枚方創政会　長友克由

質問　市街化調整区域が大部分を占める東部地域は、土地や建物の利用制限があり、活性化に向けた様々なコンテンツ実現のハードルになると考える。これまで問題提起し、規制緩和を要望してきたが、進捗を聞く。

答弁　農業振興地域内で基準を満たした既存建築物を活用し、農林産物の加工や販売など、観光資源を生かした取組を実施できるよう、4年6月運用開始に向け運用基準の策定手続を進めている。

支援学級　音に敏感な児童等に配慮した教室環境を

質問　支援学級を見学した際、教室が不足している学校では、空気を循環させるため、上が五、六十センチメートル空いたパーティションで教室を分割していた。支援教育の見直しにより来年度から週の半分以上は支援学級で過ごすというが、音に敏感な児童等のために改善が必要ではないか。

答弁　適切な学びの場とするため、授業に集中できる環境整備に努める。

子どもや保護者 一人一人に寄り添い支援につなげる取組を

自由民主党枚方創政会　前田富枝

質問　子ども見守りシステムの構築により、各部署が把握する子どもとその家庭の情報を一元的に集約し、迅速に支援等のアプローチができるという。相談等に至るまでには小さな兆候が必ずあり、その時点で周りが気づき、支援を届けられたらと考えるが、同システムは、こうしたサインをキャッチするツールとなるのか。

なお、保護者への支援も大切である。育児は相談するものではないとして孤立していく人も多いのではないか。一人一人に寄り添い、SOSを出さない、出せない人を支援につなげる取組を要望する。

答弁　本システムは、蓄積された相談記録等を分析し、予防的な支援につなげることも想定している。子どもと関わる中での実情と蓄積データを比較検証し、どのような状況下で早期の関わりを持てばいいのか検討する。

◆その他の質問

○職員が生き生きと仕事に臨める組織づくりを

○議論深め市民優先の市駅周辺のまちづくりを

④・⑤街区のまちづくり アリーナ整備多角的な検討を

改革市民の会　妹尾正信

質問　市駅周辺再整備の④・⑤街区（＊1）のアリーナ整備や連鎖型のまちづくりについて聞く。

なお、アリーナ整備では、財源や持続可能な事業スキームを多角的に検討し、民間ノウハウを最大限活用するよう要望する。

答弁　多目的アリーナや伝統芸能施設などを配置し、総合文化芸術センターや③街区のホテル、商業などの機能と連携することで、より魅力的なまちの実現を目指していく。

女性の出進　社会進出のため企業等へ知識の発信を

質問　女性の健康課題の解決と社会進出の促進には、フェムテック（＊9）の取組を進め、企業等へ正しい知識を発信することが重要と考えるが、本市の取組を聞く。

なお、女性従業員の定着率向上等の観点から、同趣旨の研修等に取り組む企業への支援を要望する。

答弁　企業の健康経営の取組支援の中で、正しい知識の普及や、がん検診や休暇の取得推進等の周知、啓発に取り組んでいる。

２・３面 用語の解説

＊1　街区…市駅周辺再整備では、枚方市駅周辺を①街区から⑤街区までの５つのエリアに定め、再整備を進めることとされている。

各街区の位置については下図のとおり。

＊2　サウンディング…行政が事業検討の段階で民間事業者からの意見、提案等を把握すること。

＊3　ダブルカウント加配…支援学級児童を含んで市独自の少人数学級編制に伴い学級数が増える学校に対し、市費任期付講師を加配する制度のこと。

＊4　逆プロポ…「逆公募プロポーザル」の略。民間企業が関心のある課題を提示し、その課題に対して、自治体が課題解決のための企画やアイデアを提案して、マッチングするという仕組みのこと。マッチング後は、企業が自治体に対し寄附を行い、企画の実施支援や提携を行う。

＊5　DMO…観光地域づくりのかじ取りを担う法人のこと。

＊6　個別施設計画（総合編）…公共施設の長寿命化の推進や施設総量の最適化などの取組を総合的かつ計画的に推進するための具体的な考え方をまとめ、３年３月に策定した計画のこと。

＊7　公民連携プラットフォーム…企業や大学、研究機関等の事業者と市の抱える課題を共有し、事業者が持つアイデアや技術を生かし、課題解決と市の魅力向上に向けた公民連携事業を展開していく場のこと。

＊8　DX（Digital Transformation）…「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念で、新たな価値を創造することを目的に、デジタル技術の駆使によって既存の枠組みを変化させること。

＊9　フェムテック…「Female（女性）」と「Technology（テクノロジー）」を掛け合わせた造語。女性の健康課題をテクノロジーで解決する製品やサービスのこと。

点字議会報・声の議会報を発行しています

目の不自由な方に議会の活動を知っていただくため、「点字議会報」と「声の議会報」を発行しています。

送付を希望される方は、市議会事務局までお申し出ください。

また、「声の議会報」は市議会ホームページでもお聞きいただけます。

声の議会報はこちらから

希望者に手話通訳者を配置します

事前のお申込みを

・本会議を傍聴する際、御希望があれば、手話通訳者を配置します。

・費用の御負担はありませんが、事前のお申込みが必要です。

・お申込みの方法等については、市議会ホームページの「市議会傍聴の案内」を御覧ください。

お申込みはこちらから→